

新連載執筆のねらいと執筆者紹介

天理参考館から

幡鎌真理

『Glocal Tenri』創刊号の巻頭言には、グローバリズムとローカリズムを橋渡しした概念をグローカリズムと呼び、前者を地球主義、後者を地域主義とすれば、地域と地球の二つを一つにした地域地球主義に立つ“二つ一つ”の天理”が本誌を現すということが書かれている。このグローカリズム～ローカルとグローバル～を一番体感できるのが博物館ではないだろうか。ある地域特有のモノ、人類史上普遍の品、それらを展示室で一気に見較べることができるのだから。そしてこの天理に昭和5年(1930)に創設され、今日約30万点の資料を有する世界の生活文化と考古資料の博物館が存在する。大学附属の博物館として内容も、収蔵資料点数も、展示床面積も、日本最高水準を誇る天理参考館について紹介していきたい。

幡鎌真理 (はたかま まり)

1987年より天理大学附属天理参考館に勤務。学芸員。日本民俗室に所属し、日本の民具資料を担当。最近の展覧会では人形玩具、蹴鞠を扱った。近著の主要論文は、「天理参考館蔵蹴鞠資料1－鞠水干 紅上－」『天理参考館報』(第27号、2014)。

第57回印度学宗教学会学術大会で発表

澤井治郎

5月30日～31日、標記の学術大会が、東北大学川内南キャンパスにおいて開催された。同学会の学術大会では毎年、印度学、仏教学、宗教学に関する幅広い研究発表が行われている。筆者は今回『天理教教典』における「信心」と「信仰」というタイトルで発表した。それは、日本の宗教伝統における「信心」と「信仰」の意味について簡単に触れたうえで、『天理教教典』において示されている「陽気ぐらし」への歩みにおいて、両概念がどのような位置づけにあるのかをまとめたものである。

また、30日に行われた公開シンポジウム「寺院と現代社会」では、日本では主に仏教がなってきた葬儀のあり方をめぐって様々な観点から活発な議論が繰り広げられ、フロアからの意見として、橋本武人本学前学長が、天理教においては死を出直しと捉えることについて説明した。

出張報告：デンマーク訪問

八木三郎

個人研究調査のため、2015年6月6日から12日までデンマークを訪問した。毎年定期的にコペンハーゲン市を訪れ、まちづくりのあり方、障害者福祉施策等について調査を行っているが、今回は現地の障害者協議会役員のお招きにより、障害者福祉先進地域といわれるオーフス市を訪れた。

オーフス市はコペンハーゲンの南西187kmに位置し、電車

で約3時間を要するデンマークでは2番目に大きな都市である。

オーフス市は世界各国のパーソナル・アシスタント制度の創設に大きな影響を与えた重度障害者のヘルパー制度(イエルパー)発祥の地である。滞在中は、重度障害者の生涯教育の場である「デイ・スクール」を見学し、そこに通う障害当事者の人たちと日常生活上でのさまざまな課題について意見交換を行った。また、オーフス大学に在籍する重度の障害学生にインタビューを行い、大学における障害学生支援プログラムについて聞き取り調査を行った。

「台湾の伝道宗教」フォーラムで発表

金子 昭

6月27日、天理大学ふるさと会館にて、公開フォーラム「台湾の伝道宗教—歴史と現在、及びその展望」が開催された。このフォーラムは、台湾において伝道活動を広く展開している諸宗教に焦点を当て、その歴史を振り返り、現在の動向を捉え、将来を探る試みとして行われた。天理教においても台湾伝道庁が設立されて昨年で80周年を迎え、台湾における伝道宗教として、戦前・戦後に長い歴史を刻んできた。そこでこのフォーラムでは、最初に、長年にわたり天理教の台湾伝道の先頭に立って尽力してきた三濱善朗・前天理教台湾伝道庁長が基調講演を行い、その後のパネルディスカッションの部で、日本及び台湾の研究者5人がそれぞれの研究テーマに基づいて発表した。最後に、聴講者も交えてパネリストによる活発な総合討議がなされた。このフォーラムは天理台湾学会第25回記念研究大会の一環として企画されたもので、本研究所からは、同学会長でもある佐藤浩司、そして金子昭の2名が発表した。発表者と発表題目は以下の通り。

基調講演：三濱善朗(前天理教台湾伝道庁庁長)

「天理教の台湾伝道を振り返って」

パネルディスカッション：

張馨方(台湾・国立政治大学大学院生)

「台湾の新宗教の伝道—唯心聖教的教理與傳道」

金子昭(天理大学おやさと研究所)

「台湾のキリスト教の伝道—とくに先住民キリスト教会をめぐる」

謝世維(台湾・国立政治大学宗教研究所)

「台湾の新道教の伝道—新道教的斗科與傳道」

佐藤浩司(天理大学おやさと研究所)

「台湾における天理教の伝道—その歴史・現在・展望」

村島健司(関西学院大学先端社会研究所)

「台湾の新仏教の伝道—慈済会の災害復興と文化的再開をめぐって」

総合討議 司会進行：高佳芳(天理大学)

「出前教学講座」申し込み受付

おやさと研究所では教区、教会などの単位で「出前教学講座」の依頼をお受けしています。詳細は、担当者佐藤孝則(tasato@sta.tenri-u.ac.jp)までお問い合わせ下さい。